

暖地園芸センターニュース発刊に寄せて

所長 尾上 重幸

暖地園芸センターは、昭和62年6月に農業試験場暖地園芸総合指導センターとして、日高、西牟婁地域の園芸作物の振興をはかるために設立されました。

設立以来、本県花き、果樹（ウメ）、育種を中心として、研究陣容、施設の充実強化に努めてまいりました。その結果、充分とは申せませんが、試験研究もようやく軌道に乗つつあり、地域の皆さまの御要望に何とか応えられるまでに成長をしております。

しかし、変化のはげしい農業情勢のなかで、本県農業の一層の発展、振興を期するためには、新しい時代の要請に対応し得る試験研究体制の整備、試験研究の充実強化が緊急の課題となっております。

そのようななかで、時代の要請にともない、試験研究事業の円滑化、効率化をはかる必要性が生じてきました。さらに、暖地園芸総合指導センターを、花き、地域品目、生物工学等を主とする地域の高度な技術を備えた専門試験場として、独立化が検討されてまいりました。

その結果、各方面の関係の方々のご支援をいただき、平成5年4月、県の機構改革により、農業試験場暖地園芸総合指導センターから、暖地園芸センターと名称変更し、総務課、園芸部、育種部の1課2部体制で独立し新た

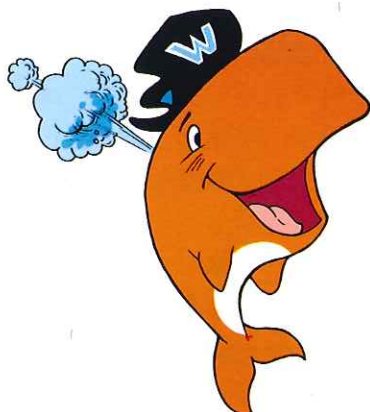
に発足することとなりました。

当センターでは、今までも県の黒潮フラワーエリア構想の推進を背景とした花の試験研究を中心に、バラのロックウール栽培、カーネーション、スターチス、スイートピー、宿根カスミソウ等の技術開発、普及に取り組んでまいりました。また、バイオテクノロジーの手法を利用した県特産園芸品目の優良実用品種の育成、増殖、更に、ウメの着果安定技術開発や優良品種選定に関する試験に取り組んでまいりました。

今後、市場でのシェア争い等産地間競争は一層激しさを増すものと思われまます。それらの競争に打ち勝つためには、常に、需要、流通販売の動向を十分に把握した産地体制の確立や新しい生産技術開発が重要な課題となっております。

そのため、当センターでは、引き続き本県の主要な園芸作物を中心として、新しい技術開発や特産品目の優良品種の育成につとめ、本県農業の振興、発展に寄与してまいりたいと考えております。

これからも、暖地園芸センターの発展のために、一層のご支援とご鞭撻、ご指導をお願いいたしますと共に、暖地園芸センターニュースのご愛読をお願い申し上げます。



ワクワン

世界リゾート博

リゾート博わかやま

平成6年7月16日(土)～9月25日(日)